



平成 31 年 2 月 19 日

各 位

会 社 名 **株式会社 MORESCO**  
 代表者名 代表取締役会長 赤田 民生  
 (コード番号 5018 東証第一部)  
 問合せ先 取締役 常務執行役員  
 経営企画部長 宮川 弘和  
 TEL 078 - 303 - 9058

## MORESCO 第 8 次中期経営計画(2018～2020 年度)修正について

当社は、平成 31 年 2 月 19 日開催の取締役会において、平成 30 年 2 月 20 日に公表いたしました MORESCO 第 8 次中期経営計画(2018 年度～2020 年度)につきまして、昨今の業績動向を踏まえ見直すこととし、下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

### 1. 売上高、利益計画(連結)

(修正後)

(単位：百万円)

	2017 年度実績	2018 年度見込	2019 年度	2020 年度
売 上 高	27,922	28,900	31,300	33,800
営 業 利 益	2,330	1,980	2,150	2,400
経 常 利 益	2,600	2,230	2,450	2,700
親会社株主に帰属する当期純利益	1,623	1,450	1,550	1,650
経常利益率	9.3%	7.7%	7.8%	8.0%

注) 2018 年度見込は当中期経営計画修正発表日現在の業績予想値です。

(修正前)

(単位：百万円)

	2017 年度実績	2018 年度	2019 年度	2020 年度
売 上 高	27,922	30,000	32,000	35,000
営 業 利 益	2,330	2,450	2,700	3,200
経 常 利 益	2,600	2,750	3,000	3,500
親会社株主の帰属する当期純利益	1,623	1,700	1,850	2,150
経常利益率	9.3%	9.2%	9.4%	10.0%

### 2. 第 8 次中期経営計画修正の理由

国内においては、堅調な自動車生産や 2020 年のオリンピックに向けた需要拡大により景気回復基調が続いていますが、米中貿易戦争の長期化や中国経済の減速を背景に世

界経済全体は減速傾向にあります。一方で、足元原油価格は低下し始めてきているものの、年初からの原油価格の上昇等によりコストアップが続いております。

そうした中、当社の第8次中期経営計画では、国内事業基盤を充実させるとともに、海外での製造、販売の拡大を目標としてきましたが、2018年度は中国経済のスローダウン、新興国におけるドル高の影響、原材料価格上昇によるコストアップ、ハードディスクドライブ業界の減速等があったことから、今般、第8次中期経営計画の業績目標を修正することといたしました。

### 3. 修正中期経営計画

#### 3.1 修正中期経営計画の重点事業戦略（各部門概要）

##### ①特殊潤滑油部門

主たる需要分野である自動車産業においては、日本、中国、アメリカにおいて生産台数の頭打ち傾向がみられますが、インドや東南アジアを中心とした新興国では生産台数の増加が見込まれます。そうした中、当社主力製品であるダイカスト用油剤については、少量塗布で優れた性能を発揮する離型剤の拡大によってグローバルトップを目指します。また、まだまだ世界的にシェアの低い切削油剤や熱間鍛造潤滑剤については、国内外の開発ノウハウを共有化するとともに、グローバル生産体制を確立させ、世界市場でのシェア拡大を図ります。

一方、国内では、上記少量塗布型離型剤、白色系の熱間鍛造潤滑剤等、環境負荷軽減に貢献できる潤滑剤の開発や、航空機部品、ガラス等の難削材の加工を可能にする切削油剤の開発、新たな販売ルートの開拓等により国内基盤の充実を図ります。

##### ②合成潤滑油部門

高温用合成潤滑油は、主として自動車電装部品向けの高温軸受用グリースの基油として使用されており、高いシェアを有するオンリーワン製品として安定的な需要が見込まれますが、新たな製品開発、用途の拡大、欧米・中国への展開により、オリジナリティーの高い製品を世界に供給します。

ハードディスク表面潤滑剤は、サーバ向けメディア市場での底堅い需要はあるものの、ハードディスクドライブ以外の記憶媒体の開発進展にともない厳しい環境が続くと予想される中、薄膜化、耐久性やコストパフォーマンスに優れた新潤滑剤を市場投入するとともに、生産の最適化とコストダウンにより収益性維持に努めます。また、次世代メディア用潤滑剤の先行開発を積極的に進め、継続的な新機種での認定を目指します。

##### ③素材部門

主力製品である流動パラフィン、高引火点流動パラフィン等、新製品の投入により国内外のリチウムイオン電池向け需要の取り込みをはかるとともに、医療品、化粧品等の成長分野における需要の拡大に対応します。また需要の堅調な天然スルホネートについては、生産性の向上により生産量を確保いたします。

##### ④ホットメルト接着剤部門

衛生材では、既存顧客との関係をより強固にしながら国内基盤を固めるとともに、多様化する海外ニーズに対応した商品の開発により、グローバル展開をさらに加速させるとともに、低臭気ホットメルト接着剤の開発により顧客ニーズにあった新商品を展開してまい

ります。ラベル等の粘着材分野においては、高機能新製品により新しい分野、新しい用途への売上高拡大を目指します。また、VOC（揮発性有機化合物）への対策として、需要増加が見込まれる自動車内装用を主とする反応型ホットメルト接着剤を環境負荷軽減に貢献できる接着剤として引き続きアピールしていきます。

中国・天津やインドネシアの現地法人においては衛生材用途だけでなく、フィルター分野や自動車分野等他分野への拡販活動を強化するとともに、販売エリアの拡大も進めていきます。

製造面では、原料購入のグローバル化を推進し、サプライチェーンを強化することにより、原材料の安定確保とコスト競争力強化に努めます。また、海外生産部門とのネットワークを強化し、グローバル共通品質の確保と最適生産を追求します。

#### ⑤デバイス材料部門

当部門の主力製品である有機EL向け封止材については、中国等海外を中心に販売を拡大していくとともに、当該業界でも知名度が高まってきた世界で唯一の高性能ガス・水蒸気透過率測定装置（スーパーディテクト）についても、海外メーカーをターゲットに販売体制を整え拡大を図っていきます。有機薄膜太陽電池については、OPV開発部として独立させるとともに増員を図り、早期に事業化すべく開発、製造、販売の強化をしております。

### 3.2 部門別売上高の計画（連結）

（単位：百万円）

	2017年度実績	2018年度見込	2019年度	2020年度
化学品事業	27,869	28,850	31,250	33,750
特殊潤滑油部門	12,583	13,200	14,600	15,600
合成潤滑油部門	2,743	2,600	2,400	2,500
素材部門	3,576	3,900	4,400	4,600
ホットメルト接着剤部門	7,274	7,400	7,800	8,600
デバイス材料部門	120	100	250	400
その他	1,573	1,650	1,800	2,050
賃貸ビル事業	53	50	50	50
合計	27,922	28,900	31,300	33,800

注）2018年度見込は当中期経営計画発表日現在の売上高予想値です。

## 4. 海外戦略および新製品開発

### ①海外戦略

当社グループは、自動車分野で国内市場が成熟する中、引き続き、自動車関連や衛生材料分野の成長が見込まれる新興国において、特殊潤滑油、ホットメルト接着剤等の事業展開を積極的に推進してまいりますが、特に、中長期的には自動車関連等で需要が拡大している中国、北米を重要市場と位置付け、マーケティング、性能、コスト面等で競合各社を凌駕すべく体制を強化してまいります。また、グローバル展開推進のための体制作りや、新製品開発

力強化による競争力の向上を目指し、現地と日本の連携により現地ニーズに対応した事業展開をスピーディーに進めます。

中国ではグループ会社間のネットワークをさらに強化するとともに販売網を整備し、日系のみならず現地企業への販売を強化します。特に、まだシェアの低い切削油剤や熱間鍛造潤滑剤の拡販活動を加速するとともに、ホットメルト接着剤では、衛生材用途以外の用途での拡大を図っていきます。また、環境規制が厳しくなっている中で、少量塗布型離型剤の販売を強化するとともに、環境に配慮した製造を行ってまいります。

東南アジアでは現地ニーズの情報収集に注力し、ニーズに対応した製品開発をタイムリーに行うことで、ローカルユーザーを含めた市場でのシェアアップに努めます。またタイ、インドネシアの生産拠点を核としてベトナム、マレーシア、フィリピン等へ市場開拓を進めます。

インドでは、2017年に設立した現地法人を拠点に潤滑油やホットメルト接着剤の販売を拡大するとともに、工場建設を進め2019年6月頃の稼働を目指します。

北米においては、ダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤および高温用合成潤滑油を中心とした市場開拓を日系企業のみならず米系企業に対して推進するとともに、メキシコ駐在員事務所と連携し、積極的に自動車部品メーカー等の需要を取り込んでまいります。

## ②新製品開発

新製品開発では、従来からの「環境関連分野」、「情報関連分野」、「エネルギーデバイス分野」に「メディカル材料分野」を加えた4分野に重点をおき、人的、技術的ネットワークを生かしながら、当社のコア技術をさらに強化し、国内外の顧客ニーズにあった製品開発に注力していきます。また、世界をリードする独創性の高い製品をタイムリーに市場投入してまいります。

### 1) 環境関連分野

自動車関連部品の製造工程で重要な役割を担う特殊潤滑油分野では、省資源、省エネルギーに貢献する高機能製品の開発を進めます。少量塗布で優れた離型性や潤滑性を発揮するダイカスト用油剤、難削材や航空機産業用部品を加工できる切削油剤等、オリジナルの高い製品展開を図ります。

溶剤を含まず環境負荷軽減に寄与するホットメルト接着剤分野では、反応型ホットメルト接着剤等が国内自動車メーカーの一部車種で採用されていますが、耐熱性をさらに向上し、これまで使用されなかった内装用部位への展開を図るとともに低コスト化を実現し、グローバルな展開に結び付けてまいります。

### 2) 情報関連分野

ハードディスクドライブの需要は、中長期的に見れば今後ともクラウドサーバ用の成長が進展すると予想され、より高度な次世代記録方式に対応した高機能な表面潤滑剤を提供してまいります。また、流動パラフィンについては、リチウムイオンバッテリーメーカーの増産ならびに品質向上に対応した生産・開発体制を構築してまいります。

### 3) エネルギーデバイス分野

有機合成技術、配合技術、高分子材料の変性技術等を生かし、今後の成長が期待される有機ELパネルや照明等、有機デバイスの長寿命化に貢献する高バリア性封止材料については、さらなる性能アップに努めるとともに、有機デバイス分野で高いシェアを有する韓

国企業、中国企業での本格的な採用に向けて注力し、新エネルギー関連分野への展開を加速します。また、有機薄膜太陽電池については、発電効率の向上とともに、量産化によって歩留まりの向上を図り、用途の拡大を図っていきます。

#### 4) **メディカル材料分野**

メディカル材料分野については、専任の人材を配置し、神戸の先端医療産業都市内に位置するメリットを生かしつつ、大学等との産官学連携により創薬支援材料や高薬理活性材料の開発等を進めてまいります。

以 上